

2026年度 文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入学試験  
2026年度 スポーツ能力に優れた者の特別選抜入学試験  
「生命科学部」

1. 実施状況

志願者数、合格者数等

【文芸】

学科	志願者数	1次合格者数	最終合格者数
応用化学科	0	0	0
生物工学科	0	0	0
生命情報学科	0	0	0
生命医科学科	0	0	0
計	0	0	0

【スポーツ】

学科	志願者数	1次合格者数	最終合格者数
応用化学科	1	1	0
生物工学科	1	1	1
生命情報学科	1	1	1
生命医科学科	1	1	1
計	4	4	3

2. 試験内容

面接選考では、通常の個人面接に加え、生命科学部における4年間の学修に必要な素養を確認する口頭試問を実施しました。口頭試問では、大学における学修のための基礎的な素養として、高等学校の「理科」（「物理」・「化学」・「生物」から1科目選択）に関する問題を出題しました。

今年度の出題分野は以下の通りでした。

「物理」 様々な力、熱の利用（いずれも「物理基礎」の範囲）

「化学」 酸化と還元（「化学基礎」の範囲）、電離平衡（「化学」の範囲）

「生物」 生物の共通性と多様性、情報の伝達（いずれも「生物基礎」の範囲）、  
生体物質と細胞（「生物」の範囲）

3. 出題意図

生命科学部における学修の基礎である「理科」について、基本的な素養が身についているかを確認することを目的としました。生命科学部の授業を履修するために必要な最低限の水準を想定して、教科書でも扱われるレベルの基本的な問題としました。

4. 評価のポイント

高校で学習する理科の基礎的な素養が修得されていることを基準としました。

## 5. 解答状況

口頭試問は教科書の練習問題レベルの問題でしたが、難なくスムーズに解答できたケースから、基礎知識が不十分でヒントを与えても解答できなかったケースまで、志願者の間で水準に差がみられました。合格とされた中にも、大学入学後の学修を支障なく行うためには、入学前にさらなる努力が必要と考えられる場合もありました。理解度に不安がある場合は、入学前教育の課題などに積極的に取り組むことが望まれます。

また、個人面接での一般的な質問でも、合否に影響するほどではないものの、実験・実習のある生命科学部の授業とスポーツ活動をどう両立するかをよく考えている志願者と検討が不十分な志願者との差がみられました。

## 6. 次年度以降の受験生へのアドバイス

理科の各科目について、まずは教科書の内容を理解し、概念を把握することが重要です。理工系の学問には積み上げ型の要素も多く、理解が不十分のまま放置すると、その後に学ぶ内容にまったくついていけなくなる（結果的に4年で卒業できなくなる）ことがあります。生命科学部では実験・実習科目もあります。入学後も文化・芸術活動やスポーツ活動と学修とを両立できるよう、生命科学部のカリキュラムを知った上で、できるだけ具体的な目標や計画をもって受験に臨んでください。

学修との両立に努力が必要な学部ではありますが、現に、スポーツで優秀な成績を挙げつつ学業成績もよかった先輩もいます。挑戦する意欲のあるみなさまをお待ちしています。

## 7. 進路指導上の留意点（主に高校教員向けの入試指導上のポイント）

生命科学は広い境界分野を包含する総合科学です。高校「生物」からイメージされる分野よりはるかに広く、物理学、化学、生物学、農学、工学、医科学、薬学、情報科学など科学全体に広がっていきます。大学での学修においても、「物理」「化学」「生物」はもとより、高校で学ぶ多くの科目が基盤となります。入試科目に限らず、積極的に授業や自主学習に取り組むよう、受験生にご指導いただきたくお願い申し上げます。

以上